交通安全のまちへ

問生活安全課
(☎242-0797)

自分や家族、みんなを守るため心に余裕を持って交通ルールやマナーを守りましょう

通勤や通学の時など、交通事故を目撃したり、危うく事故を起こしそうになったりした経験がある方もいるのではないでしょうか。どうして事故は起きてしまうのでしょう。事故を起こさないためにはどうしたらいいのでしょうか。今回の特集は、交通安全について考えます。

市内での交通事故

下関市では平成30(2018)年の1年間に1025件の人身交通事故が発生しました。平均すると、1日に約2・8件起きている計算です。

平成30年の事故原因として最も多いのが安全運転義務違反(前方不注視・操作不適・安全不確認など)で、その次は歩行者妨害違反となっています。市内で発生する事故の特徴として、下関警察署の梅本交通官は「全国的にもいえることですが、高齢者が被害に遭う事故や高齢ドライバーによる事故の割合が高く、道路横断中に被害に遭う方も多い」と指摘します。

車の性能の向上、飲酒運転やシートベルト着用の規制強化などにより事故の件数自体は減っていますが、市内で、毎日のように事故が実際に起こっている状況です。

高齢ドライバーの増加

平成30年の市内の免許人口は16万7150人、そのうち高齢者は4万6134人で高齢者率は27・6パーセントとなっています。「高齢化が進み、高齢ドライバーの割合が増えているため、警察では高齢者が関与する交通事故の抑止に力を入れています」

高齢ドライバーへ

高齢ドライバーの関わる交通事故の抑止のために梅本交通官は次の3つの対策を挙げます。

①運転技量の自覚

下関警察署
梅本 正人交通官

市内交通事故状況

年齢層別交通事故被害状況(平成30年)

年齢層別		負傷者数	死者数
合計		1,274人	3人
こども	未就学児童	6人	
	園児	9人	
	小学生(低)	24人	
	小学生(高)	16人	
	中学生	19人	
青壮年	高校生	24人	
	60歳～64歳	71人	
	その他	848人	2人
高齢者	65歳～69歳	86人	1人
	70歳以上	171人	

下関市の交通事故発生状況

年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
発生件数(人身事故)	1,543件	1,395件	1,313件	1,264件	1,025件
負傷者数	1,970人	1,841人	1,663人	1,590人	1,274人
死者数	10人	16人	7人	15人	3人

笑顔が通う

「加齢に伴う身体能力の低下は、誰にも訪れるものです。高齢者は過去の経験にとらわれ過ぎる傾向があるため、現在の運転技量を自覚することが大事です」と梅本交通官。警察では、自動車学校において教官同乗のもと、コースを運転する「交通安全定期診断」などの交通指導を行っています。

②安全運転サポート車の購入

被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報などが装備された安全運転サポート車は交通事故の防止に貢献しています。

③運転免許証の返納

「運転に不安のある方は免許の返納も検討してほしいと思います」。市内における平成30年の高齢者の免許返納者は981人。10年前に比べて2倍以上になっています。

高齢の歩行者へ

高齢者が被害に遭う事故が多いことから、事故防止のために梅本交通官は次の3つの対策を挙げます。

①安全確認の徹底

「道路を横断するときは、左右をしっかりと確認し、車の動静を注視することが重要です」

②反射材の着用促進

「県内では、平成30年1月から令和元年6月までに夜間、高齢歩行者が被害となる交通事故で12人が亡くなっていますが、全員が反射材未着用でした」。夜間、歩行中に事故に遭わないために反射材は有効です。

③交通安全教室の活用

「警察にご依頼があれば、少人数の参加者に対しても交通安全教室を行っています」。教室では、注意するポイントなど再確認できます。

心に余裕を持って

「朝まで元気だった方が突然いなくなる。そんな事故に遭われた方の家族などの辛い状況を目の当たりにしてきました。事故を無くすためには皆さんの協力が必要です。自分や家族、みんなを守るため、心に余裕を持って、ルールやマナーを守ってほしいですね」と梅本交通官。

高齢化が進む中で、ドライバーや歩行者一人ひとりの普段の心掛けと、相手への思いやりの気持ちが大切です。いつも心に交通安全の意識を持ちましょう。

運転免許証を返納し「運転卒業証」を授与された

佐藤 緑 さん

返納してからの生活の変化

息子に事故をしないか心配だから車の運転をやめてほしいと言われたのが運転免許を返すきっかけでした。

免許を返すことに不安もありましたが、息子に買い物に連れて行ってもらったり、バスを利用したりするので、思っていたほど不便はありませんでした。今では、バスを待っている間に編み物をして、今までとは異なる生活や時間の使い方を楽しんでいます。

息子からは、ほっとしたと言われ、自分よりも、家族がこんなに心配していたのだと改めて知りました。

車は便利ですが、その反面、危険を伴ないます。運転しないということも、一つの選択だと思います。

高齢者免許センター

運転免許に関する高齢者のための専用窓口。認知機能検査の予約のほか、運転免許証の自主返納の相談などにも応じています。

日 平日 午前９時30分～午後４時
所 山口市小郡下郷3560-2
問 ☎083-975-3322

高齢者講習の現場

70歳以上の方は、運転免許証を更新する際に、高齢者講習を受けることが義務付けられています。講習では、座学と運転を行なっています。高齢の方は、スピードを出し過ぎることが多く、脱輪される方もいます。第三者である教官からアドバイスを受け、自分の運転を再確認してもらいたいですね。

下関自動車学校
佐伯 壽德 校長

▼教習所のコースで、S字、クランク、車庫入れなどの実践講習を行います。

▲視野検査の様子。年齢とともに視野は狭くなると言われています。

地域で守る通学路での交通安全

下関交通安全協会
昇地 浩さん

交通事故が多い交差点は、通勤などで交通量の多い朝と夕方に事故が集中しています。子どもたちが安全に登校できるように、交差点で立哨指導(交差点などに立って交通指導をすること)をして地域に貢献している人たちがいます。

▲雨の日も立哨指導を行ないます。

笑顔の横断歩道

江浦小学校付近の横断歩道で10年間立哨指導をしている下関交通安全協会の昇地さん。晴れの日も雨の日も、朝と午後の2回、通学路に立ち続けています。朝は交通量が多く、急いでいる車も多いそうです。「1年生は不安でいっぱいなので、話しかけるようにしています」と話す昇地さん。気を配りながら、子どもたちへの毎日の交通指導に取り組んでいます。

「子どもたちは、横断歩道を渡った後に、止まってくれた車におじぎをするようにしています。ドライバーも自然と笑顔になります」と昇地さん。歩行者もドライバーも相手を思いやることが、とても大切です。

学校からの感謝

「子どもたちにとって立哨指導をされている方は、とても身近で頼れる存在です」と話す江浦小学校の藤井校長。「天気が悪いときや、車が多いときでも、いつも居てくれ

▲下関交通安全協会の皆さん。いつも子どもたちの登校を見守っています。

下関交通指導員会
中村 繁雄 顧問

55年の大ベテラン

交通指導員暦55年。幡生口の交差点では40年間交通指導を続けている下関交通指導員会の中村顧問。子どもたちには、「慌てない、走らない」と指導しています。事故を起こさないためには、車も歩行者も急に動かないことが大事です。中村顧問には思い出深かった出来事があります。「小学校の６年間、私があいさつをしても、下を向いて一度も返事をしてくれない子がいました。卒業式の日に初めて私の顔を見て『おじさん、長い間ありがとうございました』と言って頭を下げました。私はびっくりして、気付いたら嬉しくて泣いていました」と笑顔で話します。「継続は力なりといいますが、愛情も込めて、これからも続けていきたいです」

▲下関交通指導員会の皆さん。

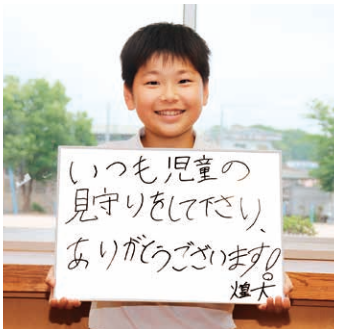
江浦小学校
藤井 智寛 校長

るのでとても心強いです」

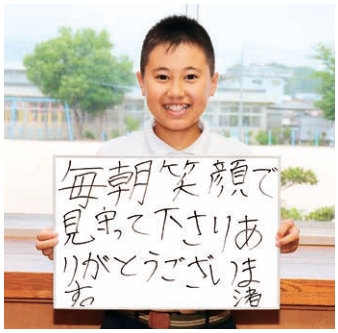
保護者にとっても横断歩道はとても心配な場所です。学校でも入学前の児童に5年生と一緒に交通指導を行ったり、お昼の放送のときに交通安全の話をしたりと交通安全の指導に取り組んでいます。「いつも子どもたちを見守っていただき、感謝の気持ちでいっぱいです」と藤井校長は話します。

いつも心に交通安全

交通事故は、日常の暮らしの中に潜んでいます。警察やボランティアが交通安全のためにさまざまな活動をしていますが、一人ひとりが交通ルールやマナーを守ることで交通事故を防ぐことができます。自分自身の心掛けと相手を思う気持ち、その両方が交通事故をなくすためには不可欠です。皆さんで協力し、交通事故のない、笑顔があふれるまちをつくっていきましょう。



江浦小学校６年生からのお礼のメッセージ



秋の全国交通安全運動

期 9月21日～30日
- 子供と高齢者の安全な通行の確保
- 高齢運転者の交通事故防止
- 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 飲酒運転の根絶
- 横断歩道における歩行者優先の徹底

問 生活安全課（☎242-0797）